

令和 5 年度第 2 回参画と協働のまちづくり審議会

自治のあり方（行政）検証結果

1 会議概要

令和 5 年 5 月 2 9 日（月） 午後 1 時 3 0 分～午後 4 時 2 0 分
白岡市役所 会議室 4 0 4

2 第 2 回審議会における検証作業について

行政における自己検証として実施した令和 4 年度市民参画手続の実施状況では、パブリックコメント、傍聴可能な審議会の開催回数等、附属機関の公募状況、市民説明会の実施状況等、十分に市民の参画機会を提供できている。

しかしながら、令和 4 年度に実施した自治基本条例にアンケートでは、市民参画手続等の認知度は低く、広く市民の声を施策に反映させる手法が課題として明確となった。

第 2 回会議においては、市民の声を行政に反映させる方法について、主に議論した。

3 審議会が出された意見

- ・ 若い層の意見をくみ取るような方法を考えることが必要
- ・ 白岡市内でも地域特性があり色々な面で状況が違う。
アンケートを実施する場合には、地域特性も考慮して実施することにより意見が出やすくなる。
- ・ 井戸端会議では、色々な意見がでるが、行政区の役員会のような席では意見が出なくなる。
- ・ 行政区内の班長には、若い世代が多いため班会を適宜開催することにより、若い世代の意見が上がりやすくなるのではないか。
- ・ 地域活動に子どもを巻き込む（防災キャンプ、わんぱく広場、夏祭り）
- ・ 現在もやっていると思うが、インターネットをさらに活用する。

- ・ SNS の機能をもっと活用する。
SNS 内でアンケートをとることもできるため、若い世代の意見が集めやすくなるのではないか。
インスタグラムのストーリーにアンケート機能があるので活用する。
- ・ アンケートはかみ砕いた質問にする。
- ・ 審議会等の会議でもっと発言しやすい仕組みづくりが必要だ。
- ・ 会議事項の内容が難解、少なくとも言葉を咀嚼してわかりやすい言葉で伝えるべき。
- ・ この審議会の名前も長くてわかりづらい。
- ・ 行政区の良い例をピックアップする。
- ・ 行政が地域の世話をやく気持ちで支援が必要
- ・ 地域活動に対する補助金等、金銭的な土壌をつくる
- ・ 活字ばなれが、益々進んでいる。
文章で伝えるのには、限界が来ている。発想を変えて、漫画や動画で伝えるなどの工夫をする。
- ・ アンケートの自由記述で色々意見が出ている。批判や指摘が多いがこれを書いている人は、内容からして恐らく市民活動や地域活動をしていない人の意見だと考える。
次は、実際に活動を実施している方からアンケートとるなどして、さらに発展した意見をもらうべきだ。
- ・ 働いている若い世代は、忙しく物心両面に余裕がない。子ども会などを巻き込み活動を広げたいとおもうが進まない。行政区や子ども会という枠では、地域活動を広げることは難しい。
- ・ 地域の役員は、ノルマとして引き受けることが多く、何かを始めたいと思う方は少ないと思う。
- ・ 若い世代は、市域ではなく外にコミュニティを持っている人が多い。
白岡は、住むだけのところとなっている。
- ・ 総合振興計画などの計画があるが、具体的なルールが敷かれていないのでやることがコロコロ変わる。
- ・ 市は様々なことでPRをしていることに市民活動を通じて市に興味を

持ってから知ったが、市民にはまだまだ届いていない。もっとくどいくらいに色々なことをPRするべきだ。

- ・ 行政は、コンプライアンス（法令遵守）、ガバナンス（統治）、アカウントビリティ（説明責任）を念頭に行政を行うべき。
- ・ 白岡の梨栽培は、全国的に技術が高い。

4 参画手続実施結果（自己検証結果）総評

令和4年度の市民参画の実施状況では、前回検証時の平成30年度の実施状況と比較してほぼ横ばいの状況でした。

市が開催する審議会等における構成委員の公募状況や条例等の制定時のパブリックコメントについては、適切に実施されており、市民の参画機会を設けることにおいては、十分に実施されています。しかしながら、市民の声を市の施策に反映させるという視点においては、アンケートの結果から見ても十分な状況とは言えず、今後、対策や工夫が必要です。

今後の事業の施策展開において、審議会やアンケートを実施するにあたり地域特性や年齢特性にも着目し、それぞれの特性に配慮したわかりやすい言葉で説明ができるよう工夫するとともに、意見を出しやすい仕組みづくりの検討も進めてください。検討に当たっては、特に次世代を担う若い層の意見を上手く取り入れることが重要です。

また、SNSやインターネットを活用し、文章だけに頼らない新たな取組がもとめられています。

市民が、自分たちの声が行政に届いていると実感できるよう、行政が市民の意見を求める際には、市民が自分たちの声が行政に届いていると実感できるような市民参画手続の工夫を期待します。